HEALTHY（ヘルシー）



「沖縄の地域特性を踏まえた感染症予防や重症化抑制が必要です」

琉球大学大学院医学研究科
感染症・呼吸器・消化器内科学講座（第一内科）教授
山本 和子（やまもと・かずこ）

今回は、感染症の研究を専門とする琉球大学の山本和子教授に、沖縄県における感染症流行の特徴や、その背景にある地域医療の課題、そして予防医療の未来について話を伺いました。

感染症の研究と臨床を礎に、琉球大学の教授へ

―山本教授は2022年10月に琉球大学大学院医学研究科感染症・呼吸器・消化器内科学講座（第一内科）の教授に就任されました。まずは沖縄に赴任されるまでの経緯をお聞かせください。

私は1999年に佐賀医科大学（現・佐賀大学医学部）を卒業後、東京や長崎での研修を通じて感染症や呼吸器内科の研究と診療の魅力に触れました。そこで感染症研究にも取り組める呼吸器内科を専門科として選択し、2003年から感染症の研究で多くの指導者を輩出していた長崎大学病院第二内科関連の臨床検査部大学院で研究を始めました。

―そこで感染症を専門領域とする方向性が固まったわけですね。

07年にそのまま第二内科に入局したのですが、感染症の研究を続ける中で、最新の免疫研究を米国で学びたいと強く思うようになりました。電子メールがそこまで普及していない時代でしたが、どうにか免疫研究で名の知れた3つの教室から面接機会をいただき、西海岸から東海岸まで1週間かけて訪問しました。

―精神・肉体的に大きな負担のかかる1週間だったのでしょうね。

この機会を逃すと留学の道が断たれるというプレッシャーもあり、食事もほとんど喉を通らない状態でしたが、幸いすべての教室からオファーをいただきました。さまざまな環境を考慮してボストン大学に留学先を決めました。

―幼少期に米国で生活された経験があるとのことですから、2度目の訪米になるわけですね。

以前は九州大学医学部に勤めていた父の仕事の関係で、シカゴに2年間住んでいました。今回も09年から2年の予定で留学しましたが、2年目の終わりに大きな研究費を獲得することができ、留学を2年延長しました。帰国後は長崎医療センターの感染症内科新設に携わり、長崎大学に戻ったのは15年になります。その後、20年には新型コロナウイルス感染症が爆発的に流行し、大きな社会問題となりました。私も患者の治療に追われる日々を過ごしましたが、治療と並行して、それまで使用されたことのない薬剤を治療に用いる「特定臨床研究」にも携わり、臨床研究の分野でも成果を積み上げることができました。そんな折、琉球大学の教授選考があり、上司からも「挑戦してみないか」と勧められたこともあり応募を決意しました。その結果、22年10月に琉球大学の教授として赴任することになりました。

かかりつけ医の不在が病気の重症化の原因に

―就任当時、沖縄における感染症医療の状況はいかがでしたか。

私がまず取り組んだのは、新型コロナを含めた沖縄の医療現場の現状把握でした。感染対策を万全に取った上で、第一内科から医師を派遣している病院を中心に、県内の主要医療機関45カ所を訪問しました。陽心会の高良理事長からご助言もいただき、早い段階から県や那覇市の感染症対策に関する策定会議にも参加させていただくことができました。

―その中で、全国との違いを感じることはありましたか。

まず流行時期が本土とは異なるということです。新型コロナ感染流行の大きな波は6月頃から始まり、7月にピークを迎えて8月に落ち着くというパターンが続いています。冬にもピークはありますが、全国と比較すると低い傾向にあります。また流行の波の高さも本土と比較して高い水準にありました。

したので、その原因を解明する研究を立ち上げました。

―研究の成果について教えてください。

研究から見えてきた大きな傾向として、まずは小児間の感染から始まること。次いで、沖縄は3世代同居など家族間のつながりが強い生活環境がありますから、小児を介して家庭内で感染が広がります。一人親家庭でも、日中は祖父母が子どもの面倒を見ることも多いですから、そのことも影響しています。沖縄は出生率が高いですから、このような地域特性を踏まえた感染対策を講じることが重要になります。

―感染症対策の観点から、ほかに沖縄特有の課題はありますか。

新型コロナは23年5月に5類感染症に移行し、全国的には少し不安が和らいでいましたが、それにも関わらず琉大病院には毎日多くの重症患者が搬送されてきました。そこで第一内科と連携している複数の病院と共同で、入院患者や亡くなられた方を対象に研究を開始しました。その分析から見えてきたのは、重症患者には糖尿病患者が多いこと。沖縄は糖尿病の罹患率や肥満率が非常に高く、そこに関連する大きな課題として「かかりつけ医」を持たない人が多いことが明らかになりました。全国的には、糖尿病患者はすでにその診断がなされていて、治療も行われているケースが多く見られます。しかし沖縄では、新型コロナによる入院をきっかけに初めて自身が糖尿病であることを知る方が少なくありません。健診の受診率も低いし、かかりつけ医もいない。その結果として、入院して初めて自分の身体の状態を知ることになる。こうした沖縄の特徴を踏まえた感染症予防や重症化抑制に向けて、行政、医師会、そして私たちアカデミアが連携し、県民に向けて啓発や予防医療の推進に取り組んでいくことが必要です。

“外で育てて沖縄に戻す”第一内科から世界へ発信

―第一内科が行っている啓発活動があれば教えてください。

私は就任半年後に、年一回開催する「沖縄エリア感染症・化学療法研修会」を立ち上げました。毎回テーマを設定し、その分野で日本を代表する先生をお招きするとともに、県内でそのテーマに関連した診療や啓発活動に積極的に取り組んでいる先生方にも講演いただいています。4回目となる来年3月の研修会では「インバウンドに伴う感染症」をテーマとする予定です。国際感染症研究の第一人者をお招きし、琉球大学病院内の講堂で開催します。沖縄は結核が流行している国や地域から来られる外国人も多いですから、その人たちを雇用する企業や観光業に携わる方々にもぜひ来場いただきたいと考えています。

―最後に、第一内科の社会的使命についてどうお考えになりますか。

第一内科は将来の医師を育成する県内唯一の機関であると同時に、呼吸器や消化器、感染症という多くの患者を診る分野を担っています。私たちの使命は、沖縄県民に県内で最高の医療を届けるための専門医を数多く育成することです。そのためには医局員が沖縄だけに留まるのではなく、全国や海外で最新の知見に触れる機会を数多く与えなければいけません。“外で育てて沖縄に戻す”ということ。研究と臨床を両立させることがいい医者の条件だと思っていますし、そのマインドがないと最新のものを学ぶ気持ちにもなりません。研究と臨床を直結させ、その結果を国内外に発信する。第一内科をそういう組織にしたいと考えています。

医療法人 陽心会グループ
医療法人 陽心会　社会福祉法人 陽風会　有限会社 ヘルスサポート
理事長 高良 健

大道中央病院
那覇市安里1-1-37　TEL.098-869-0005(代)
リハビリテーション部門 TEL.098-869-0050
メディカルプラザ大道中央病院
那覇市字大道123　TEL.098-886-0007(代)
一般内科部門 TEL.098-886-0115
循環器部門 TEL.098-886-5141
糖尿病部門 TEL.098-886-0115
人工透析部門 TEL.098-886-5151
健診部門 TEL.098-886-0078
介護老人保健施設 やすらぎの里
那覇市安里3-1-57　TEL.098-869-0030
有料老人ホーム 星の館
那覇市安里1-1-17　TEL.098-917-1262
グループホーム たかまみの家
那覇市字大道94-3　TEL.098-887-0081
グループホーム 大道が丘
那覇市字大道94-3　TEL.098-885-0036
小規模多機能型ホーム 大道
那覇市字大道94-3　TEL.098-885-0018
地域交流センター 大道
那覇市字大道94-3 2F　TEL.098-885-0018
那覇市地域包括支援センター 若狭
那覇市若狭2-1-10　TEL.098-863-1165
ケアハウス 常夏の島
那覇市牧志3-8-10　TEL.098-951-0036
特別養護老人ホーム 前島
那覇市前島2-18-17　TEL.098-894-8039
那覇市末吉老人福祉センター
那覇市首里末吉町2-14　TEL.098-886-3510
那覇市壷川老人福祉センター
那覇市壷川2-3-11　TEL.098-853-1139
那覇市比老人診の家
那覇市比2-14-1　TEL.098-864-0580
那覇市地域包括支援センター 新都心
那覇市銘苅1-6-15　TEL.098-941-2252
福祉用具貸与・販売事業所
那覇市字大道128　TEL.098-885-0100
有料老人ホーム 健寿の杜
那覇市安里3-1-47　TEL.098-941-0070
有料老人ホーム 松風郎
那覇市比2-10-14　TEL.098-869-8557
ヒルズガーデン那覇
那覇市字松川20-1　TEL.098-885-0300
デイサービスセンター こすもす
那覇市松川２０番５　TEL.098-975-5273
グループホーム 若狭の家
那覇市若狭3-4-10　TEL.098-951-0551
小規模多機能型ホーム 若狭
那覇市若狭3-4-10　TEL.098-951-0550
地域交流センター 若狭
那覇市若狭3-4-10　TEL.098-951-0550
那覇市地域包括支援センター かなぐすく
那覇市繁原町1番68号 1F　TEL.098-852-0777
在宅総合ケアセンター 大道
那覇市安里381-1　TEL.098-885-0030
在宅総合ケアセンター 大道／訪問介護事業所
那覇市字大道128　TEL.098-885-0033
有料老人ホーム 牧志
那覇市牧志2-9-43　TEL.098-862-1331
有料老人ホーム まらら
那覇市安里3-1-47 5F-6F　TEL.098-923-5707
訪問看護ステーション なまくま
那覇市安里3-1-47　TEL.098-894-5748
訪問看護ステーション なまくま
那覇市字大道116　TEL.098-894-5749
デイサービスセンター リバーサイド
那覇市安里1-1-18
3F TEL.098-862-1501 2F TEL.098-943-2016
居宅介護支援事業所 なまくま
那覇市泊2-25-2　TEL.098-943-5565
介護用品
那覇市字大道116　TEL.098-917-0916